



南雲 正

# 町長の積極的な町政運営を求める

町政立て直し三年  
断行の約束は

## 質問

町長就任時における約束「町政立て直し三年断行」実現の期限を迎えたが、就任以来、何をしてきたのか、今後何をやるうとしていられるのか伺いたい。

## 町長答弁

3年間5億円の行政経費削減を継続し、私自身も就任以来、給与の10%削減をしてきて3年目に入る。課の統廃合、指定管理者制度の導入、観光事業の民営化、自立プランの策定、挨拶運動、町民満足度研修、地産地消新米フェア、1市6企業との災害応援協定の締結、子供の教育を今後どうするかを教育委員会に諮問、20年度は湯沢病院に電子カルテを導入する。

## 質問

湯沢に住んでいる人たちが湯沢で生活できる町、飯が食える町を作るために、どれだけ頑張ってもらえるかの期待が大きかったはずである。町長は就任にあたり、観光客の増加をはかるための各種施策の展開や観光産業の再構築、流入人口を増加させるための各種施策を緊急に行うとしていたが、現在、観光客は落ち込み、観光の再構築はなされず、人口は8千500人まで落ち込んでいる。期待とは程遠い流れになってきているが、今後どのような対応をされるのか。

## 町長答弁

新潟市長と連携し、外国人観光客の誘致をしている。土日もなくいろいろなイベントに顔を出し一生懸命働いている。定住人口を増やすために二地域居住を推進し「ゆざわ暮らし」を発行しているが、なかなか人は

一般質問

動かない。

新潟デステイネーションキャンペーンと国県の観光振興対策に対する町の対応は

## 質問

全国に向けて展開される、2009年のJR6社による大型観光キャンペーン「新潟デステイネーションキャンペーン」を前に、今年度プレキャンペーンが予定されている。山形庄内地域と下越地域では、既にこれに対応する展開が始まっている。新潟県も「大観光交流年」として新潟国体と絡め大規模な観光戦略を打つ、観光立町湯沢が地域間競争に遅れ、単なる通過点とならないよう早急な対応と対策が必要であると思うが、町長の考えを伺う。

国の「観光圏整備法案」による制度を活用し、湯沢を「滞在促進地区」として、地域と一体となって、広域

的な観光資源を活用する新たな観光施策を展開するきっかけ作りを行うべきであると思うが、町長の考えを伺う。

## 町長答弁

担当課長が県のキャンペーン推進委員会の幹事になっていて、町の受け入れ企画案も延べ31案用意されている。周到な準備と新しい観光素材の掘り起こしで地域の活性化と観光交流客の拡大に努める。

観光圏整備計画については、国のスケジュールに乗り遅れないよう、既に国と協議を進めており、積極的に活用したい。

湯沢駅の活性化と駅東口のバリアフリー化の進展は

## 質問

知事との直接交渉で、新潟県のインフォメーションセンター機能を備えた、県の表玄関にふさわしい施設を新潟県がつくり、越後湯沢駅の活性化を図るということであったが、いまだに何の整備も行われていないようである。今後どのような展開になるのか。またホスピタリティを提

唱する観光の町にとって、駅通りの段差解消、バリアフリー化を実施しながら、それに接続し町の玄関口である、駅東口のバリアフリー化がなされていないが、今後の対応を伺いたい。

## 町長答弁

新幹線改札口から一番良く見える「びゅう」が土日休みでイメージが悪い、この場所に「新潟県のインフォメーションセンター」を設置して県観光のナビゲーター機能を充実するよう、知事をはじめ県の幹部にお願いしている。どうすれば早くできるか、2月には県の中核の方が湯沢に来て、方法について協議をしたので、もう少し時間をいただきたい。

湯沢町交通バリアフリー基本構想で、平成22年までにこの地域内のバリアフリー化について、一体的に推進する基本的な方針がある。この構想では鉄道事業者の事業として、駅構内エレベーターの増設、誘導サインの整備、駅東口側入口階段部分のバリアフリー化について検討することになっている、私自身が確認をして、早く実現するようJRに申し入れをする。